

「第12回健康寿命をのばそう！アワード」〈生活習慣病予防分野〉取組事例簡易紹介シート

応募事業者団体名：横浜市健康福祉局

取組・活動名：誰もが自然に健康になれる食環境づくりに向けた取組（ハマの元気ごはん弁当の販売）

取組アクション： 適度な運動 適切な食生活 禁煙・受動喫煙防止 健診・検診の受診 その他

取組に関するウェブサイトURL：<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/kenko/2023/0621syokukankyoku.html>

【実施内容の概要】

（背景や目的、方法、成果、意義を文章主体で簡潔にまとめてください。わかりやすくまとめるための記号使用可）

【目的】健康への関心の有無にかかわらず、誰もが自然に健康になれる食環境づくりに向けた取組を通じて、市民の健康的な食生活の実現を図る。

【方法】市が作成した、栄養バランスのよい食事となる栄養価の基準を満たす「ハマの元気ごはん弁当」を、企業と共同開発、販売した。

【成果、意義】

・栄養価の市独自基準の作成（横浜市食環境整備検討会での検討）

相鉄ローゼン株式会社を含む複数の食品関連事業者や、国立大学法人お茶の水女子大学等の学識経験者を委員とした「横浜市食環境整備検討会」で、健康な食事・食環境コンソーシアムが策定した食事基準「スマートミール」を参考に、企業が商品開発しやすい基準を作成。

・食品関連事業者との連携及びターゲットを明確にした商品開発

官民が持つノウハウや専門知識を連携させ、30～50歳代の男性をターゲットに、業界常識では相容れない「ボリューム」と「健康」を両立した商品を完成させ、事業者の理解、健康意識を高めることができた。

・企業と連携した広報

企業と市がそれぞれの強みを生かし、連携して広報を実施し、「ハマの元気ごはん弁当」の認知度を上げることに成功した。

・市民の反響 合計2.6万食販売、喫食者アンケート「また食べたい82%」

「栄養バランスのとれた食事」を弁当として販売することにより、喫食した人が「主食・主菜・副菜のバランス」を体感することができた。また、中食を利用する市民の「健康な食事を選択したい」というニーズを把握することができた。

・産学官連携

横浜市と相鉄ローゼンの産学官連携に加えて、国立大学法人お茶の水女子大学と連携協定を締結し、調査を実施した。

・野菜等供給量の増加

「従来の弁当」を販売した場合と比較し、野菜等供給量は1か月で462kg増加した。（調査対象の5店舗合計）

・他企業への広がり

業界常識では相容れない「ボリューム」と「健康」を両立した商品を販売し、喫食者に受け入れられることを実績（購入数、売上）として示すことにより、他企業での展開も期待される。

【取組・事業の概要がわかる写真や表・図】

	横浜市基準(※1)	そうてつローゼン「ハマの元気ごはん弁当」
エネルギー	650～850kcal	714kcal
主食	ごはん	200g
主菜	魚、肉、卵、大豆製品	チキンカツ、鶏のからあげ、ちくわ天
副菜	野菜、きのこ、海藻、いも	171g
食塩相当量	3.5g未満	2.8g
脂質エネルギー比	20～30%	26%



「ハマの元気ごはん弁当」
ターゲット：ボリュームのある食事を好む30～50歳代男性



横浜市と企業、お互いが持つノウハウや専門知識を連携させ、50回以上の試作を重ねて共同開発した。